

199 期定期演奏会のご案内

拝啓、時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。さて、突然のご案内となりますが、同志社グリークラブは 2 月 18 日に開催予定の 119 期定期演奏会を計画しており、その際に多くの方々に日々の練習の成果を共有していただきたく存じます。

今期は現在 4 回生 1 名、3 回生 6 名、2 回生 10 名、1 回生 20 名（休部者除く）計 37 名で活動しております。昨今のコロナウイルスの影響により一時的には団員数も大幅に減少し、活動継続も危ぶまれる状況になりました。しかし、OB 様方のご支援により、年々団員数は増え続け、活動を続けられています。この場を借りて心より感謝申し上げます。

今期の活動として、東京で行われた東西四大学合唱演奏会をはじめ、関西学院大学と北海道大学と合同で行った夏の男性合唱フェスティバル。夏合宿でも本格的に取り組んできた関西コンクール。クリスマスシーズンには 4 年ぶりとなる第 56 回全同志社メサイア演奏会を開催することができました。このような活動を経て団員内でも団結力や技術力を磨いてまいりました。

今回の 119 期定期演奏会では第 1 ステージに柳川風俗詩を演奏いたします。北原白秋が若かりし日に過ごした福岡県にある柳川の情景を現した作品です。作曲者の多田武彦先生の曲集の中でも有名な作品であり、柳川のゆったりとした風情を感じられる曲集となっております。

第 2 ステージではエウゲン・スホニユ男声合唱曲集を演奏いたします。当ステージでは東欧のバルトークやコダーイなどに次ぐ作曲家であるエウゲン・スホニユの作品を演奏いたします。スホニユは祖国スロバキアの復帰を何よりも臨んだ活動家であり、そういった本来のスロバキアに根づく民族音楽に基づく作曲に力を入れていました。圧制などに対する強い思いや、ノスタルジーを色濃くあらわした我が団の音楽と力強くも優美なサウンドのシナジーをお楽しみいただけるかと存じ上げます。

第 3 ステージでは男声合唱とピアノのための『3 つの悲歌』を演奏いたします。3 つの悲歌とは日本のランボーと称された大正、昭和初期の詩人逸見猶吉の足尾鉍毒事件の悲惨さを吹き込み音楽にした作品であり、壮絶なフィナーレは何とも筆舌に尽くしがたい作品になっています。このステージは諸団体以外での演奏は初めての演奏であり、耳にする機会も少ない曲でありますので是非この機会にお聞きくだされば幸いです。

第 4 ステージはチャイコフスキー歌曲集を演奏いたします。当演奏会の目玉ステージである第 4 ステージですが、ロシアの大作曲家チャイコフスキーの歌曲を福永陽一郎先生によって男声合唱版に編曲された作品を演奏いたします。歌曲の詩にはハインリッヒ・ハイネやゲーテ、トルストイなどの詩が用いられていて、ドイツとロシアの詩人が混在しておりますが、今回はドイツ語で演奏いたします。様々な表現技法を要する大曲で、ハードルは高い作品ですが、聴衆と一体となった最高の音楽を約束できるよう、全団員全力で取り組んでおります。ご期待ください。

この度、当演奏会においては、聴衆と一体となった音楽を目指し、チケットの支援をお願い

いさせていただきたく存じます。特に、当団の歴史と伝統に深く根ざしたOBの方々にご参加いただければ、我々にとっては非常に心強いことであり、更なる活動の励みとなります。当団のお名前を冠したOBの皆様方に、ぜひとも音楽の素晴らしさを共有いただき、共に美しいひとときを過ごすことができれば幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

同志社グリークラブ

119期

幹事長 佐野雅弥